

平成28年 1月18日(月)  
平成27年度 第7回  
大阪府河川整備審議会

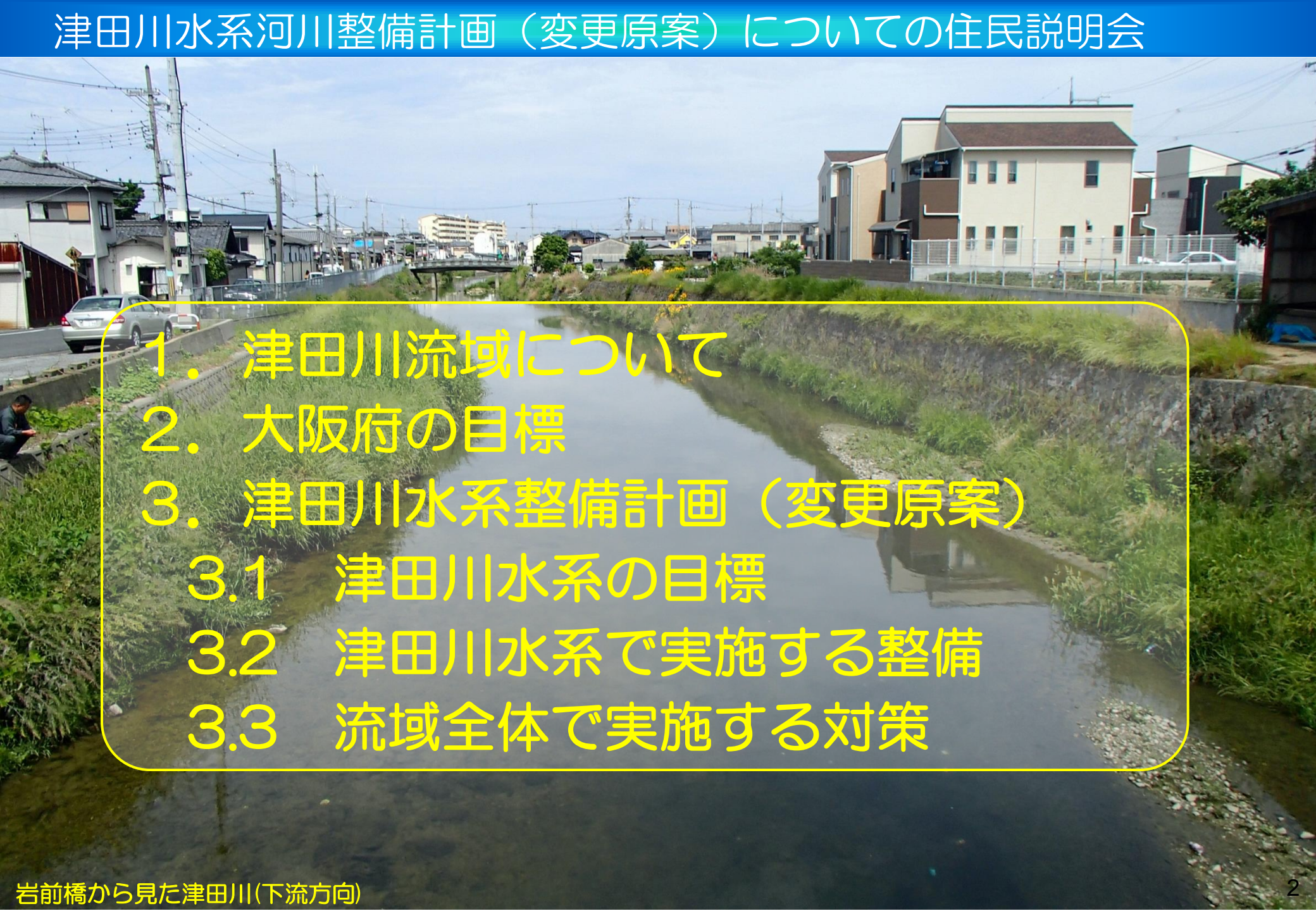
参考資料1

# 津田川水系河川整備計画（変更原案） についての住民説明会

平成27年12月15日(火) 19時～20時30分  
岸和田市 東岸和田市民センター  
17日(木) 19時～20時30分  
貝塚市 職員会館1F多目的室

本説明資料は、大阪府河川室ホームページでも見ることができます。  
(アドレス [http://www.pref.osaka.jp/s\\_kasen/](http://www.pref.osaka.jp/s_kasen/))

雨降りの滝（津田川7.8km）

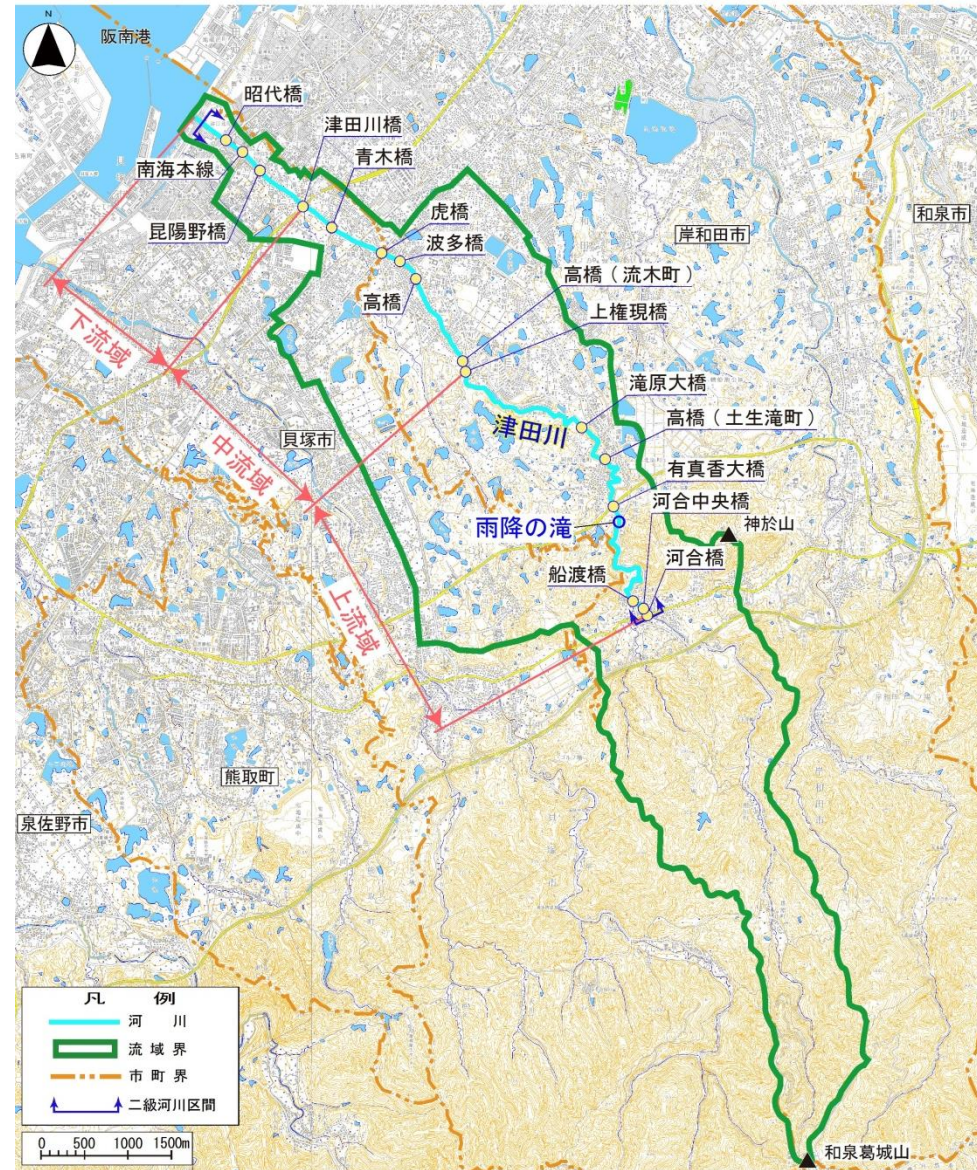
- 
1. 津田川流域について
  2. 大阪府の目標
  3. 津田川水系整備計画（変更原案）
    - 3.1 津田川水系の目標
    - 3.2 津田川水系で実施する整備
    - 3.3 流域全体で実施する対策

# 1. 津田川流域について

## 流域の概要

津田川は、その源を和泉山脈の和泉葛城山（標高858m）に発し、岸和田市を北西方向に流下、大阪和泉泉南線を境に貝塚市に入り、津田地先で大阪湾に注ぐ二級河川です。

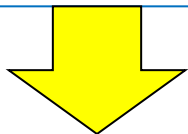
- 流域市町 貝塚市、岸和田市
- 指定区間延長 10km（河口～河合橋）
- 流域面積 26.3km<sup>2</sup>
- 流域の土地利用は、下流～中流が住宅や商業施設を中心とした市街地で、上流が山間部の農地や集落を中心とした田園地。
- 意賀美神社周辺には、落差10mの「雨降りの滝」がある。
- 流域は、河口～津田川橋(国道26号)の下流域、津田川橋～上権現橋の中流域、上権現橋～河合橋の上流域に区分される。
- 感潮区間は、南海本線橋梁上流付近までである。



## 2. 大阪府の目標

### 将来目標「大阪府河川整備長期計画 H8.3策定」

○府管理の全河川について、時間雨量 80ミリ程度※<sup>3</sup>の降雨でも、川があふれて、家が流され、人がなくなるようなことをなくす。



※1 時間雨量80ミリ程度の降雨は、100年に一度発生する恐れがある降雨

- ・府管理河川全体で、目標達成に約1兆400億円、約50年必要
- ・治水施設で防げない洪水に対する総合的なリスク対策が必要

### 当面の治水目標「今後の治水対策の進め方 H22.6策定」

【基本的な理念】人命を守ることを最優先とする。

【取組み方針】

- (1)現状での河川はん濫・浸水の危険性に対する府民の理解を促進する。
- (2)「逃げる」<sup>に</sup>「凌ぐ」<sup>し</sup>の<sup>ふ</sup>策を強化するとともに、「防ぐ」<sup>せ</sup>策を着実に実施する。
- (3)府民が対策の効果を実感できる期間（概ね10年）で実現可能な対策及び実施後の河川はん濫・浸水の危険性をわかりやすく提示する。

【当面の治水目標（今後20～30年）の設定】

○時間雨量50ミリ程度※<sup>2</sup>の降雨で床下浸水を発生させない。かつ、事業効率等を考慮し時間雨量65ミリ程度※<sup>3</sup>もしくは時間雨量 80ミリ程度の降雨で床上浸水を発生させない。

【河川情報の提供】

○住民が的確に避難行動がとれるよう、河川氾濫や浸水に対する情報提供に努める。

※2 時間雨量50ミリ程度の降雨は、10年に一度発生する恐れがある降雨

※3 時間雨量65ミリ程度の降雨は、30年に一度発生する恐れがある降雨

# 2. 大阪府の目標

地先の危険度  
低減に向けた

## 総合的・効果的な治水手法の組合せ

### 河川

**治水施設の整備・保全 (防ぐ)** 河川堤防の決壊によるはん濫をできるだけ回避する等、河川を流れる水は可能な限りあふれさせない。  
(河川改修・堆積土砂除去など)

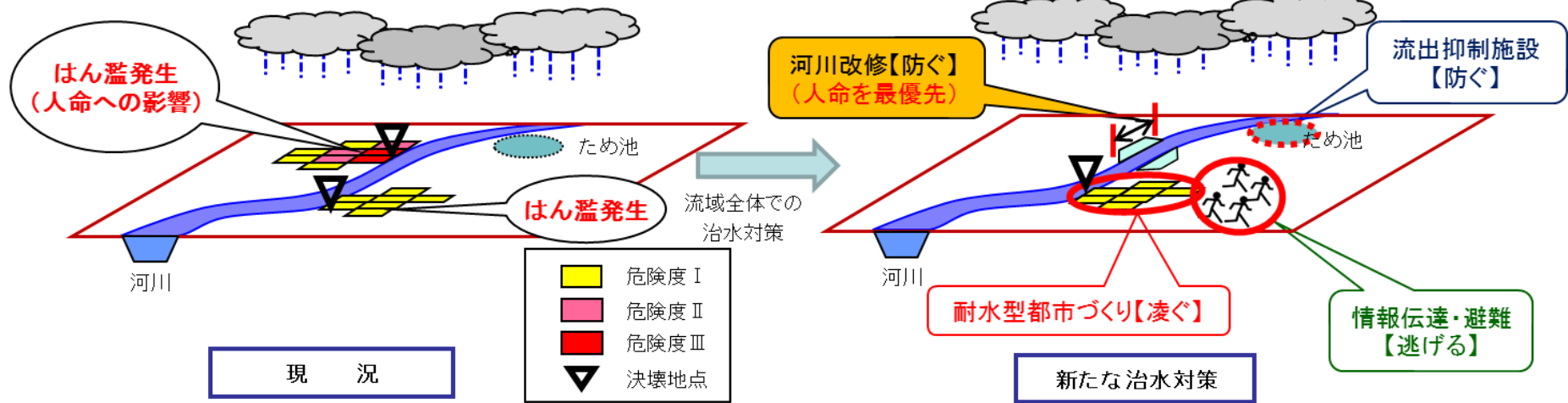
### 流域

**流出抑制 (防ぐ)** 雨が降っても河川へ出る水量を減らす。  
(家庭での貯留施設の設置やため池の治水活用等)

**耐水型都市づくり (凌ぐ)** 河川からあふれても被害が最小限となる街をつくる。  
(家屋の耐水化・高床化などの促進)

**情報伝達・避難 (逃げる)** 河川からあふれそうなときはできるだけ早く逃げる。  
(洪水はん濫・浸水による危険性の周知、避難体制づくりの促進等)

< 流域全体での治水対策イメージ >



### 3. 津田川水系河川整備計画（変更原案）

#### 河川整備基本方針・計画

##### 【河川整備基本方針とは】

○河川整備基本方針とは、将来の川のあるべき姿や河川整備の長期的な基本となる方針（治水・利水・環境）を定めたもの。

##### 【河川整備計画とは】

○河川整備基本方針に基づき、概ね20～30年間で計画的に行う河川の整備や管理に関する具体的な目標や内容を定めたもの。

※河川法により、河川管理者は河川整備基本方針・河川整備計画を定めることとされている。  
津田川水系では、H13.8月に河川整備基本方針、H15.7月に河川整備計画を策定。

### 3. 津田川水系河川整備計画（変更原案）

#### ■津田川水系河川整備計画の策定（H15.7月）

- 津田川水系の河川整備の当面の目標を定めたもの。
- 計画対象期間：概ね10年

- H22年に大阪府が策定した「今後の治水対策の進め方」に基づき、治水計画の見直しを行ったこと
- 東南海・南海地震及び南海トラフ巨大地震を対象とした対策の実施が必要である

など

#### ■津田川水系河川整備計画（変更）の策定を行う。

### 3. 津田川水系河川整備計画（変更原案）

#### 河川整備計画の策定フロー

河川整備計画（変更原案）

← 学識経験者からの意見

大阪府河川整備審議会※（および治水部会など）  
において審議

← 住民の皆様からのご意見

本日

内容の説明およびご意見の聴取

河川整備計画（変更原案） 住民の皆様のご意見を反映し修正したもの

河川整備審議会にて了承の場合

河川整備計画（変更案）

← 地方公共団体の長の意見

← 国土交通省の同意・認可

河川整備計画 策定



### 3. 津田川水系河川整備計画（変更原案）

#### 津田川水系河川整備計画の主な変更点

■ 「今後の治水対策の進め方」に基づき、治水・利水・環境の取り組みを見直す

■ **当面の治水目標を新たに設定**

⇒津田川では、南海本線橋梁から青木橋までの約1.3km区間で**時間雨量65ミリ程度の降雨による洪水で床上浸水を防ぐことを目標。**

■ 計画対象期間を変更

⇒概ね10年から概ね30年に変更

■ 良好な河川環境が保全されるよう河川環境、維持管理に関する事項を充実

⇒整備範囲および内容を明確化

■ 住民が的確な避難行動をとれるよう河川情報の提供に関する事項を充実

⇒洪水リスク表示図、雨量・水位データの公表、住民の安全な避難行動・地域防災活動の支援など

# 3. 津田川水系河川整備計画（変更原案）

## 第1章 河川整備計画の目標に関する事項

第1節 流域及び河川の概要

第2節 河川整備の現状と課題

第3節 流域の将来像

第4節 河川整備計画の目標

1. 洪水、高潮等による災害の発生の防止または軽減に関する目標
2. 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する目標
3. 河川環境の整備と保全に関する目標
4. 河川整備計画の計画対象区間
5. 河川整備計画の計画対象期間
6. 本計画の適用

## 第2章 河川整備の実施に関する事項

第1節 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事の施行により設置される河川管理施設の機能の概要

第2節 河川の維持の目的、種類及び施行の場所

## 第3章 その他河川整備を総合的に行うために必要な事項

第1節 地域や関係機関との連携に関する事項

第2節 河川情報の提供に関する事項



# 3.1 津田川水系の目標

## 自然環境の特性

- 気候は、温暖で降水量の少ない瀬戸内式気候に属し、年平均降水量は全国平均と比較して少ない。
- 津田川は、市街地～農地～山間地を流れており、緑の多い自然空間が形成されているとともに、鳥類や魚類、水生動物、水辺の植生等が生息、生育している。

- 魚類：ニホンウナギ、オイカワ、カワムツ、ドジョウ、コイ、ミナミメダカなど
- 水生動物：サカマキガイ、ミゾレヌマエビ、テナガエビ、アメリカザリガニなど
- 鳥類：アオサギ、ダイサギ、コサギ、セグロセキレイなど
- 植物：エノキ、ムクノキ、ヨシ、ヤナギタデ、ヒメガマなど



## 3.1 津田川水系の目標

### 社会環境の特性

- 関西国際空港の開港を機に(平成4年)、市街地開発が進み、平成14年頃まで人口が増加(以降大幅な減少は見られない)
- 津田川源流部の和泉葛城山(金剛生駒紀泉国定公園)には、国の天然記念物であるブナの原生林が広がる
- 津田川の北側には岸和田城があり、江戸時代には岸和田藩主岡部氏おかべしにより、南方の備えとして津田川の堤防改築が行われた
- 古くから、熊野街道や紀州街道が津田川流域を通過しており、現在でも大阪府と和歌山県を結ぶ南海本線、JR阪和線、国道26号、阪和自動車道などの主要交通路が通過



ブナの原生林



岸和田城



南海本線橋梁

## 3.1 津田川水系の目標

### 流域の将来像

#### 将来ビジョン・大阪

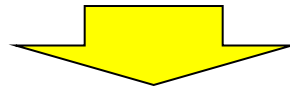
- ゲリラ豪雨対策をはじめとする総合的治水対策
- 東南海・南海地震等による津波に備えるための防潮堤の耐震化・嵩上げ
- 生物多様性が確保できる豊かな自然環境の保全
- 河川環境の改善等による水とみどりのネットワークの創造

#### 岸和田市（都市計画マスタープラン）

- 都市型水害の発生を抑制するための河川改修、雨水流出対策を行う
- 山から海につながる水とみどりの保全と形成。
- 津田川水系では、動植物の生息地として、また人が水とみどりにふれあう軸として保全・活用を図るなどが目標とされています。

#### 貝塚市（都市計画マスタープラン）

- 市民との協働、大阪府などの連携のもと、治水・利水機能と河川環境が調和したうるおいのある河川づくり。
- 津田川においては、生態系に配慮した豊かな川づくりの取り組みを促進するものとされています。

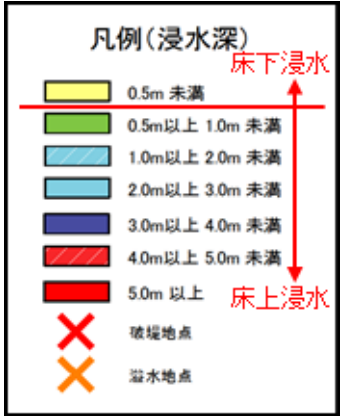
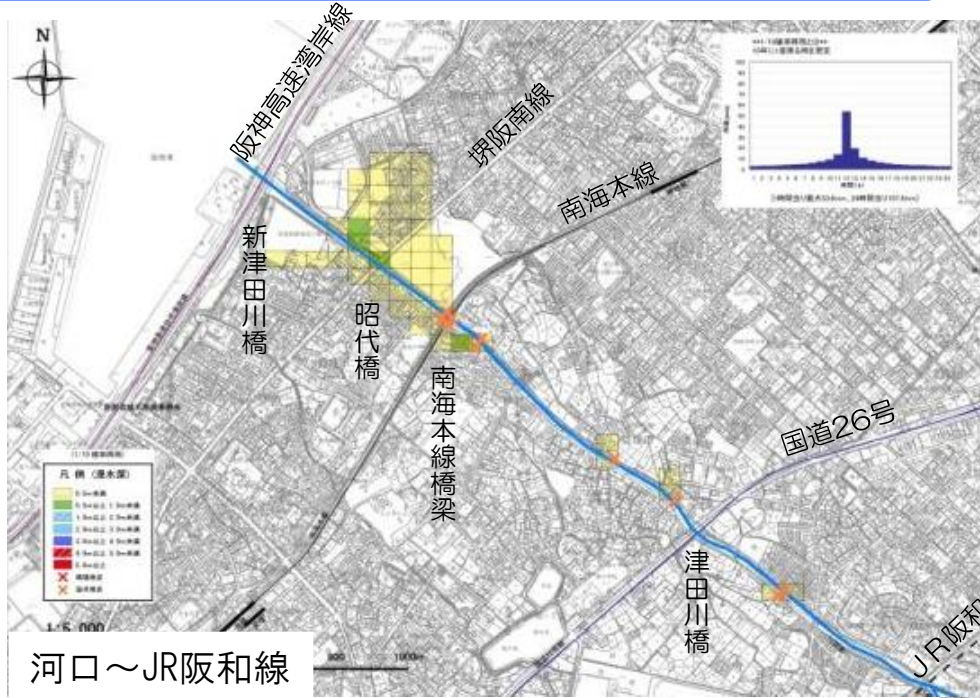


津田川水系では、流域住民や関連市との連携のもと、防災、自然環境、景観、親水機能に配慮した維持管理、整備を行います。

# 3.1 津田川水系の目標

## 氾濫想定

現状の津田川で時間雨量50ミリ程度の雨が降った場合



- 南海本線橋梁～青木橋の区間では、時間雨量50ミリ程度の降雨により、床上浸水被害が発生する。
- 船渡橋～河合中央橋の区間では、時間雨量50ミリ程度の降雨により、床下浸水相当の被害が発生するが、人家に影響はない。

## 3.1 津田川水系の目標

### 治水の現状と課題

#### 過去の被害状況（津田川）

- 昭和40年5月、昭和41年9月、昭和42年7月と連続した洪水被害が発生（被害状況不明）
- 昭和43年に「津田川河道全体計画」を策定し、昭和44年度から高橋～高橋(流木町)の約0.6kmの区間で局部改良事業に着手し、時間雨量80ミリ程度の河道改修を完了
- 昭和54年度より、河口部で高潮対策事業に着手（平成23年完了）
- 昭和57年8月に台風10号により、農地浸水2.5ha、宅地浸水14.0ha、浸水家屋数116戸の被害が発生
- 昭和59年に津田川水系全体の治水計画の見直しを行い、それにもとづき河道改修を実施
- 平成元年9月に台風22号により浸水面積4.9ha、床上浸水76戸、床下浸水375戸の被害が発生（貝塚市、岸和田市域の被害状況の合算）
- 平成7年7月には浸水家屋数10戸の浸水被害が発生

津田川の洪水対策・・・南海本線橋梁から青木橋までの約1.3kmの区間では、時間雨量50ミリ程度の降雨による洪水に対する**安全性が確保できていない**

河口部の高潮対策・・・伊勢湾台風級の超大型台風に対応できる防潮堤防が**完成**（H23）

河口部の津波対策・・・東南海・南海地震などの海溝型地震に伴う津波に対する**安全性が確保できていない**

※洪水対策は、昭和43年より「津田川河道全体計画」を策定の上、河川改修を進めてきました。

#### <課題>

**安全性を確保できていない洪水対策、地震・津波対策を実施する必要がある。**



# 3.1 津田川水系の目標

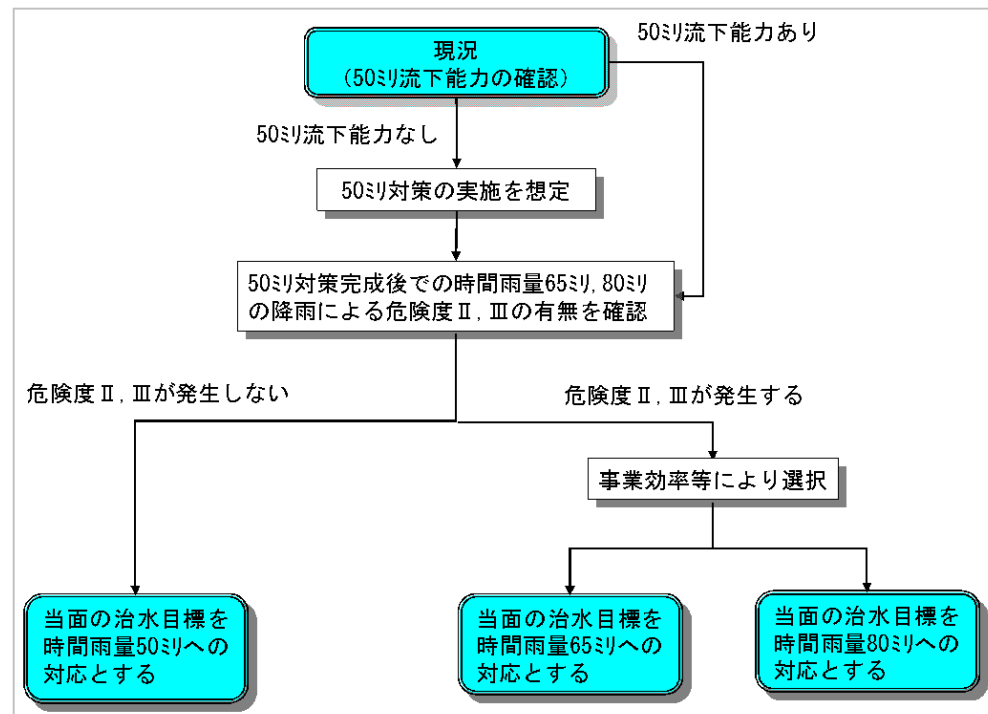
## 当面の治水目標

大阪府域での今後20～30年程度で目指すべき当面の治水目標を河川毎に設定し、大阪府全域で時間雨量50ミリ程度)の降雨に対して床下浸水を防ぎ得るような河川整備を進めることを基本とします。

その上で、時間雨量65ミリ程度および時間雨量80ミリ程度の降雨で床上浸水以上の被害の恐れがある場合には、事業効率等を考慮して、時間雨量65ミリ程度もしくは80ミリ程度のいずれかの降雨による床上浸水を防ぐことを整備目標として選択することとしています。

時間雨量50ミリ程度の降雨を十分安全に流下させることのできる河川整備を実施します。

この河川整備により、時間雨量65ミリ程度の降雨による洪水でも床上浸水を防ぐことができるものとなります。

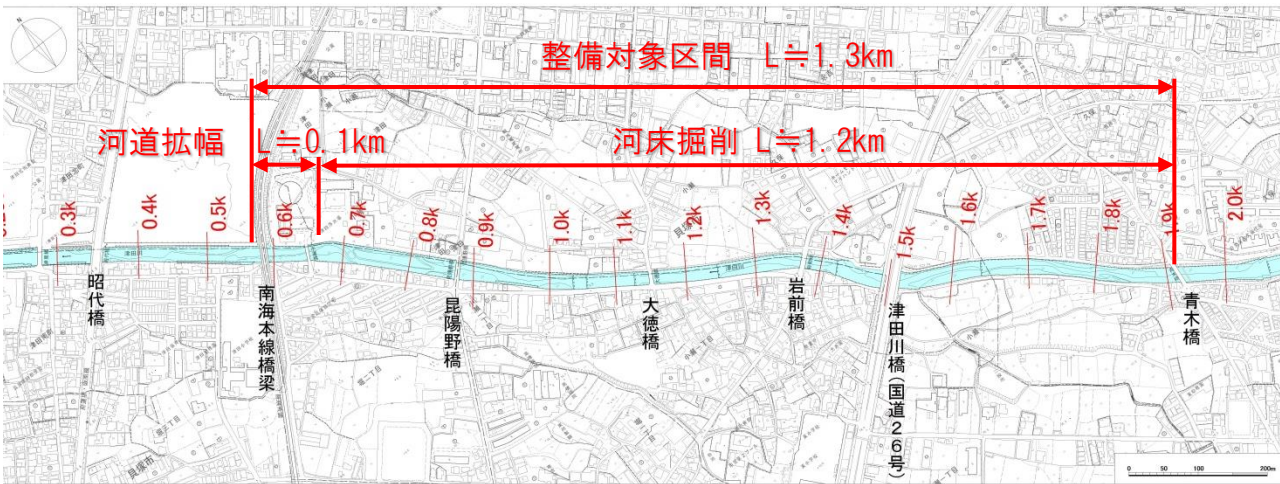


当面の治水目標設定フロー

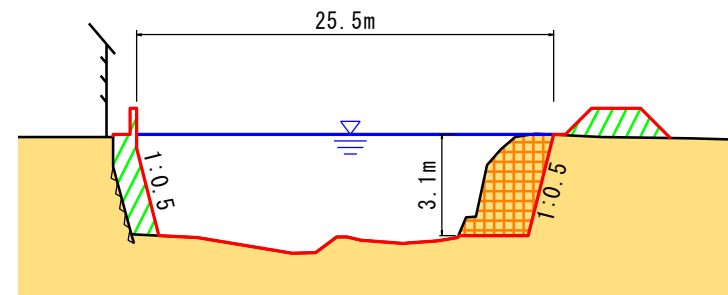
# 3.1 津田川水系の目標

## 整備内容

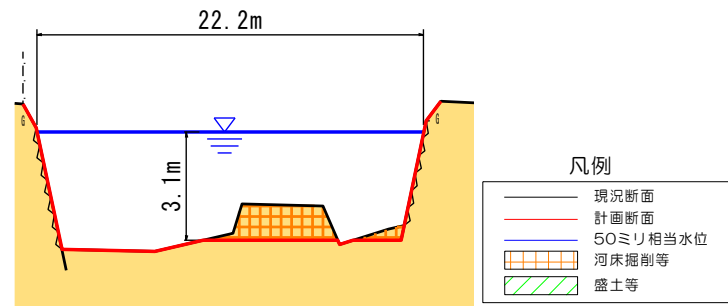
河川名	整備対象区間	延長	整備内容
津田川	南海本線橋梁 ～青木橋 (0.6～1.9km付近)	約0.1km	河道拡幅、河床掘削等により治水機能の向上を図るとともに地震・津波対策を実施します。その際には、みお筋や瀬、淵の保全等可能な限り自然環境への配慮、また周辺の住宅地等の景観との調和に努めます。
		約1.2km	河床掘削等により治水機能の向上を図ります。その際には、みお筋や瀬、淵の保全等可能な限り自然環境への配慮に努めます。



整備対象区間平面図



整備断面例  
(0.62km付近, 南海本線橋梁上流地点)



整備断面例  
(1.80km付近, 青木橋下流地点)

- 凡例
- 現況断面
  - 計画断面
  - 50ミリ相当水位
  - 河床掘削等
  - 盛土等

# 3.1 津田川水系の目標

## 河川利用及び河川環境の現状と課題

### 〈自然環境〉

	現状・課題	目標
下流域 [河口～ 津田川橋(国道26号)]	下流域では、回遊種を含む多くの魚類や底生動物が生息しています。2箇所の農業用取水堰と、3箇所の落差工により縦断的な連続性が失われていることから改善する必要があります。また、瀬や淵などの自然環境が残る箇所については、今後の河川整備等の際には保全するなどの配慮が必要です。	回遊種を含む多くの魚類や底生動物が生息しています。特定外来生物の拡散にも配慮しつつ、可能な限り下流から、落差工や利水関係者の協力が得られる等の取水堰について簡易的な魚道等の設置を検討するなど「上下流の生物移動の連続性確保」を目指します。また、瀬や淵などの自然環境が残る箇所について「河岸やみお筋の保全」を目指します。
中流域 [津田川橋(国道26号)～ 上権現橋]	中流域では、多くの魚類が確認されていますが、下流域で確認される回遊性の水生生物が中流域では確認されておらず、3箇所の農業用取水堰や13箇所の落差工が魚類等の遡上・降下の障害となっているものと考えられます。このため、失われている縦断的な連続性を改善する必要がありますが特定外来生物などの遡上・降下も懸念されるため十分な検討を行う必要があります。また、瀬や淵などの自然環境が残る箇所については、今後の維持管理等の際には保全するなどの配慮が必要です。	
上流域 [上権現橋～ 河合橋(国道170号)]	中間付近の7.8km地点にある落差10m程度の「雨降りの滝」によって縦断的に分断されています。「雨降りの滝」より下流では、中流域と同様に1箇所の農業用取水堰や10箇所の落差工により縦断的な連続性が失われていることから改善する必要があります。また、瀬や淵などの自然環境が残る箇所については、今後の維持管理等の際には保全するなどの配慮が必要です。	雨降りの滝より下流は、下・中流域と同様に「上下流の生物移動の連続性確保」、「河岸やみお筋の保全」に配慮し、水生生物の生息・生育環境の保全・再生を目指します。
	一方、「雨降りの滝」より上流で確認された魚種、個体数は、現在の水質から概ね環境に即した状態となっていることが想定されます。このため、維持管理等の際には、水生動物の生息環境である瀬や淵、河畔林の豊かな植生の保全に配慮する必要があります。	また、「雨降りの滝」より上流では、瀬や淵などの河川特有の自然環境が残る箇所について「河岸やみお筋の保全」を目指します。

### 〈景観〉

	現状・課題	目標
下・中流域 [河口～ 津田川橋(国道26号)]	下・中流域は、コンクリートブロック積護岸等による単断面構造で、人工的な景観となっています。住宅や商業施設が近接している箇所を流れており、整備の際には、周辺の景観との調和に配慮する必要があります。	住宅密集地のオープンスペースとなっていることから、今後の整備等の際には、周辺の景観との調和を目指します。
上流域 [上権現橋～ 河合橋(国道170号)]	河畔林が多く見られ、河道内の砂州には植生が繁茂しており、緑の多い景観となっています。意賀美神社周辺は、落差10m程度の「雨降りの滝」があり、大阪府の「大阪みどりの百選」に選定された景勝地となっており、良好な溪流環境が形成されています。	河畔林が多く見られる箇所や、特に意賀美神社周辺の良好な溪流環境が形成されている箇所については、現在の良好な景観の保全を目指します。

# 3.1 津田川水系の目標

## 河川利用及び河川環境の現状と課題

### 〈水質〉

	現状・課題	目標
<p>下流域 [河口～ 津田川橋(国道26号)]</p>	<p>水質汚濁に関わる環境基準は、下流域にある昭代橋が環境基準点となっており、E類型（環境基準値BOD10mg/L以下）に指定されています。平成6年には、昭代橋のBOD値が16mg/Lを記録しましたが、その後、岸和田市、貝塚市の下水道整備が進んだことから、平成17年以降は環境基準を達成し、最近ではD類型（BOD8mg/L以下）～C類型（BOD5mg/L以下）付近を推移するまでに改善されています。平成25年度末時点での下水道普及率は、岸和田市が92.9%、貝塚市が56.8%となっており、今後、下流域の貝塚市において下水道整備の進捗（貝塚市下水道普及率平成48年度目標99.5%）が見込まれることから、さらなる水質の向上が期待できるものと考えられます。</p>	<p>過去の住民アンケートから、津田川の水がきれいになっていると感じている住民はそれほど多くないことがうかがえることから、津田川の水質が向上している点について、環境教育等により、地域住民への周知を図るとともに、下水道等の関係機関や、地域住民との連携及び河川で活動している地域住民やNPO等と連携し、河川美化などにより一層の改善を目指します。</p>
<p>中・上流域 [津田川橋(国道26号)～ 河合橋(国道170号)]</p>	<p>中流域では、虎橋において、近年BOD値が3mg/Lに近い値で推移しており、上流域では、諸井堰において、近年BOD値が3mg/L以下の値で推移しています。</p>	

### 〈水利用〉

	現状・課題	目標
<p>全流域</p>	<p>津田川水系の河川水は、古くから農業用水として利用されています。7件の灌漑用の水利権（慣行水利）が届出されており、河道改修に伴い、3箇所の取水堰が可動堰に改築されています。 津田川水系では、これまでに大きな濁水被害は生じていませんが、安定的な水資源の確保に向け、今後も適正かつ効率的な水利用が図られるよう努める必要があります。</p>	<p>津田川の既得水利としては、農業用水等の慣行水利があります。河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関しては、今後とも、適正かつ効率的な水利用を目指します。</p>

# 3.1 津田川水系の目標

## 河川利用及び河川環境の現状と課題

〈空間利用・親水性〉

	現状・課題	目標
下・中流域 [河口～ 津田川橋(国道26号)]	住宅や商業施設の近接する市街地を流れており、護岸には河川に降りるタラップが設置されていますが数も少なく、護岸上には防護柵が設置され、河道内への立ち入りが制限されていることから、アドプト・リバー・プログラムの参加団体や住民ニーズに応じて各種活動の実施に対し、タラップの増設や門扉の設置など、河道内へのアクセスの改善を図る必要があります。	アドプト・リバー・プログラムの参加団体や住民ニーズに応じて各種活動の実施に対し、河道内へのアクセスの改善を目指します。
上流域 [上権現橋～ 河合橋(国道170号)]	自然環境が豊かで、水質も良好な状態となっています。意賀美神社周辺は、落差10m程度の大阪府の「大阪みどりの百選」に選定された「雨降りの滝」があり、隣接する意賀美神社参道からの景観など良好な溪流環境が形成されています。このような箇所では、住民ニーズに応じて、自然環境の保全などに配慮する必要があります。	特に、意賀美神社周辺は、良好な溪流環境が形成されていることから、住民ニーズに応じて、自然環境の保全や親水性の向上を目指します。

### 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持の内容

- 継続的な雨量、水位の観測データの蓄積と分析による水量の状況把握や取水堰等の流水の利用実態の調査を行う。

### 河川環境の整備と保全の内容

#### (1) 自然環境

上下流の生物移動に配慮するため、生物に関する実態調査を行う  
落差工や取水堰の改善の際に、魚道の設置可否を検討する  
現施設で協力が得られるものは、簡易魚道の設置可否を検討する  
整備の際には、みお筋を保全や瀬や淵の形成をする  
自然豊かな環境は、保全・再生に努める

#### (2) 景観

整備の際には、周辺景観と調和した材料を選定する  
河畔林が多く見られる箇所や良好な溪流環境が形成されている箇所について、現在の良好な景観の保全に努める

#### (3) 水質

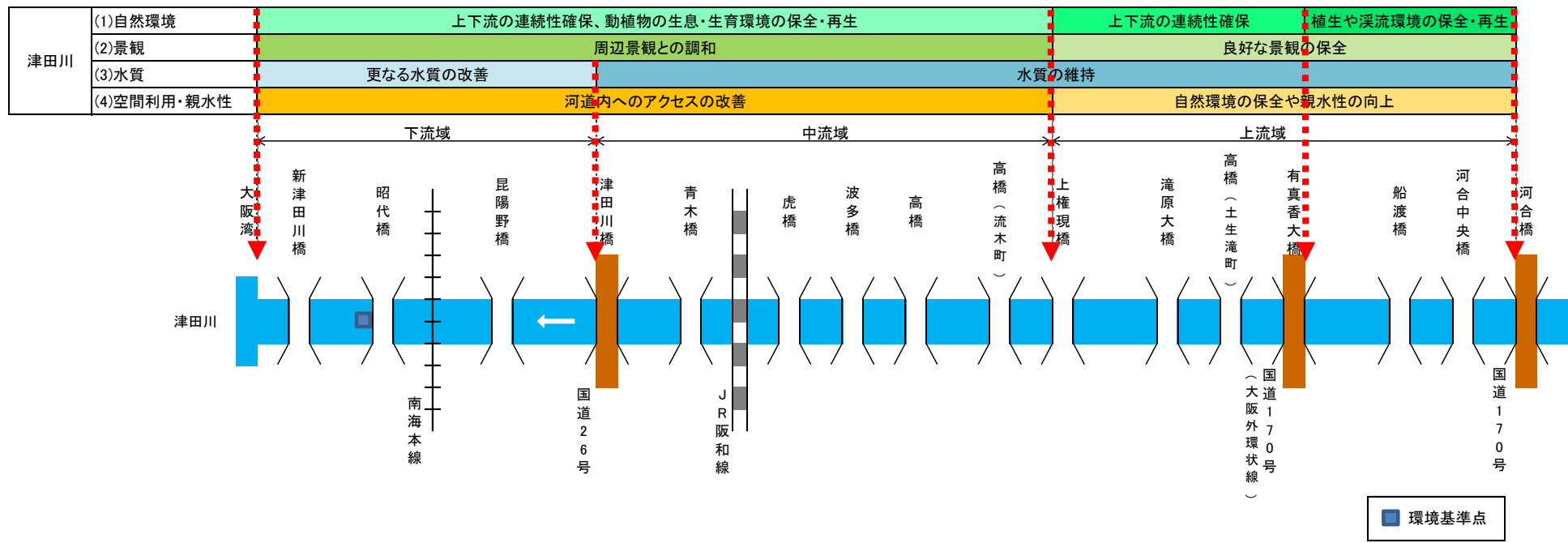
生活排水による河川への負担軽減に向けた環境学習、啓発活動等を進める  
行政指導により、下水道施設整備・接続の促進により、水質の改善を進める

#### (4) 空間利用・親水

タラップの設置や防護柵への門扉の設置によって、河道内へのアクセスの改善を図る  
住民等のニーズに応じて、自然環境の保全や親水性の向上に努める

# 3.2 津田川水系で実施する整備

## 環境に配慮した整備



環境整備対象区間概要図



土のうやふとんかごなどによる簡易的な魚道のイメージ図

## 3.2 津田川水系で実施する整備

### 河川の維持管理

- 施設の定期点検や必要に応じた緊急点検を実施し、構造物の損傷、劣化状況の把握
- 人命を守ることを最優先に、危険度の高い箇所から計画的に補修
- 許可工作物の管理者に対しても、適切に点検を実施し、維持修繕を行うよう周知徹底
- 河川の土砂堆積、植生の繁茂及び河床低下については、その状況を定期的に調査し、計画的な維持管理、対策
- 被災した際には、二次災害を防止するために応急的な対策を行い、出水後速やかに機能回復
- 河川区域で違法に行われている耕作、工作物の設置等を監視・是正するため、定期的に河川巡視、地域や関係機関との連携により、監視体制を重層化
- 不法投棄等のゴミに対して、河川巡視等において適宜回収、市町と連携した河川巡視、地域住民、ボランティア団体、自治体等と協働で定期的な河川美化活動



土砂堆積



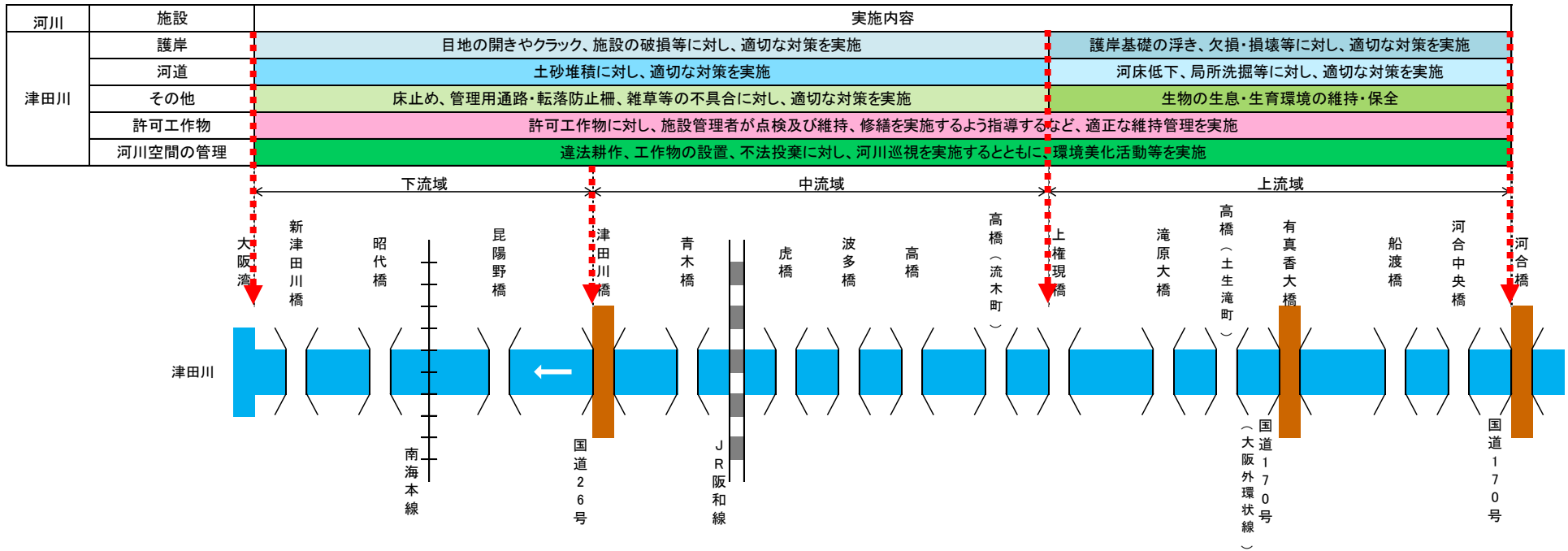
老朽化護岸(破損)

津田川水系で確認される損傷等（平成26年度末時点）



# 3.2 津田川水系で実施する整備

## 河川の維持管理



維持管理等対象区間概要図

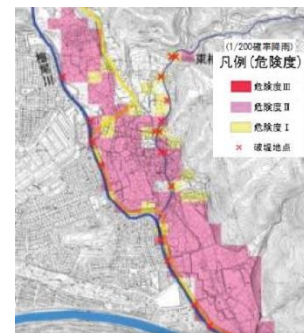
# 3.3 流域全体で実施する対策

## 河川情報の提供

- ・ 河川氾濫・浸水・地震・津波に関する情報については、住民が的確に避難行動をとれるよう、市町と連携した情報提供の実施
- ・ 情報提供にあたっては、行政からの一方的なものにとどまらず、地域特性に応じたものとなるよう、ワークショップ等を通じて、住民からの過去の浸水被害等の情報を取り入れ構築
  - ① 現状の河川氾濫・浸水による危険性の周知
  - ② 必要な情報の提供及び伝達
  - ③ 住民の防災意識の醸成

## 具体的な取り組み

- ①現状の河川氾濫・浸水による危険性の周知
- ②必要な情報の提供・伝達（洪水リスク図、地域単位のワークショップ等）
- ③住民の防災意識の醸成
- ④ホームページ、地上波デジタル放送等での情報提供



地域版水防災マップのイメージ



まち歩きの様況



手作りハザードマップと作成風景



# 3.3 流域全体で実施する対策

## 洪水はん濫・浸水の危険性の周知

- 現況での洪水はん濫・浸水の危険性に対する地域住民の理解を促進するため、津田川水系では洪水リスク表示図を開示しています。
- この表示図では、現況の河道で時間雨量50ミリ程度（約1/10）、時間雨量65ミリ程度（約1/30）、時間雨量80ミリ程度（約1/100）、時間雨量90ミリ程度（約1/200）降雨時の4パターンのはん濫解析結果を危険度（3段階）、最大浸水深（7段階）の2パターンで表示します。

### 洪水リスク表示図

【大阪府 洪水リスク表示図】 <http://www.river.pref.osaka.jp/>

家にパソコンがなくても、貝塚市役所、岸和田市役所、大阪府岸和田土木事務所などで閲覧できます。

大阪府 洪水リスク表示図

凡例

- × 破壊地点
- × 溢水地点
- 耐水型整備区間
- 水 水位計
- 雨 雨量計
- カメラ ライブカメラ
- 危険度
- 危険度I
- 危険度II
- 危険度III

○10年に一度の降雨  
○30年に一度の降雨  
○100年に一度の降雨  
○200年に一度の降雨

現状河川改修後  
●現在の洪水リスク  
○河川改修後の洪水リスク

地図表示情報  
●背景に地形図を表示  
○背景に航空写真を表示

行政境界  
府管理河川  
主要道路及び鉄道(駅)  
市役所等

破壊地点  
溢水地点  
水位、雨量、ライブカメラ映像  
解析結果  
●危険度 | ○浸水深  
凡例

河川一覧  
すべての河川   
近木川   
津田川   
春木川

「危険度」とは  
地先の危険度を示すもので以下の基準で評価しています。

I	床上浸水程度(0.5m未満)
II	床上浸水程度(0.5m以上~3.0m未満)

「耐水型整備区間」とは  
人命を守ることを最優先とした柔軟な整備(部分的改修・流出抑制)など、あらゆる手段を組み合わせて、効果的かつ効率的な浸水リスクの低減に取り組む区間。

この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図25000地区画像を複製したものである。(承認番号 平25情保 第936号)また、同院発行の数値地図25000(空間データ基盤)を使用した。(承認番号 平25情保 第950号)  
以下の国土交通省の国土数値情報を利用して表示しています。  
行政区域/河川/鉄道/公共施設

「現在の洪水リスク」とは  
「河川改修後の洪水リスク」は「現在の洪水リスク」と同じものを表示しています。整備手法が決まり次第、「河川改修後の洪水リスク」を更新していきます。

地先における河川氾濫や浸水の可能性を確認できます。



各土木事務所での洪水リスク表示図の開示状況

# 3.3 流域全体で実施する対策

## 大阪府などによる情報提供

- 大阪府では、河川のはん濫や浸水に対して、流域関係市町と連携し、府民が的確に避難行動を取れるよう情報提供をしています。

### 防災情報

#### 【おおさか防災ネット】

<http://www-cds.osaka-bousai.net/pref/index.html>



緊急情報、避難勧告・指示、地震津波情報などを提供しています。

#### 川の防災情報

雨雲の動きや全国の川の水位などの情報を携帯電話で入手できます。  
<http://l.river.go.jp/>  
直接アクセスしてください。



#### 大阪府河川情報

身近な河川の水位や雨量の情報を携帯電話で入手できます。  
<http://www-cds.osaka-bousai.net/suibou/mobile/index.html>  
直接アクセスしてください。



#### 防災情報メール

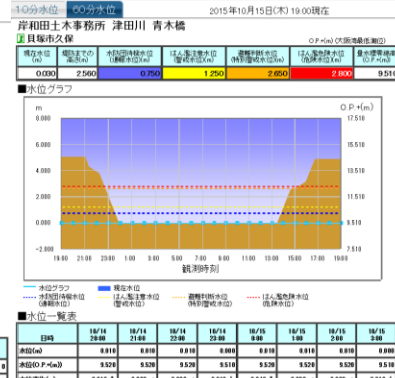
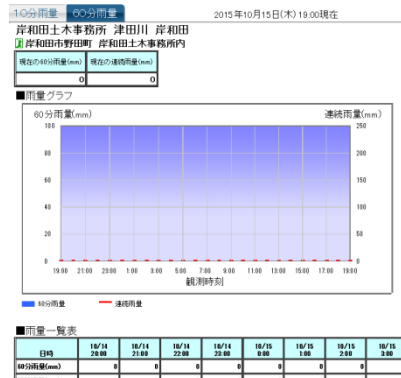
地域に発令された警報・注意報、避難勧告など、防災情報をメールで携帯にお知らせします。  
[touroku@osaka-bousai.net](mailto:touroku@osaka-bousai.net)



防災情報を携帯電話で入手できます。  
下のQRコードを携帯電話で読み込むか、下記アドレスを入力し、空メールを送信してください。

#### 【大阪府河川室 河川防災情報】津田川水系流域の雨量、流域内主要河川の水位状況などを確認できます。

<http://www.osaka-kasen-portal.net/suibou/index.html>



#### 【大阪府河川室 画像公開システム】

<http://www.osaka-pref-rivercam.info/>

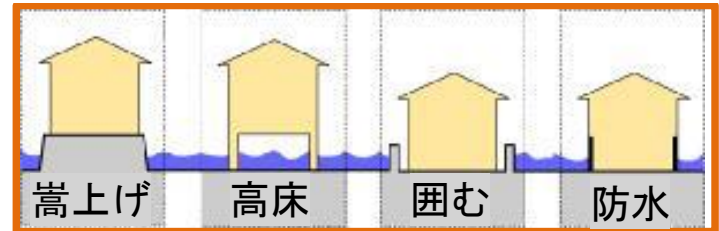
# 3.3 流域全体で実施する対策

## 地域や関係機関との連携

- 「防ぐ」
  - 河川愛護活動への支援（地域住民、NPO）
  - 地域住民やNPO団体と河川環境の保全・再生・美化活動など連携した維持管理の実施
- 「凌ぐ」
  - ため池の雨水貯留機能の保全（ため池管理者や関係団体）
  - 道路、公園、学校グラウンド等を利用した雨水貯留施設の設置（施設管理者）
  - 住宅等の開発行為に伴う調整池の恒久化（開発事業者）
  - 農地・森林の保全（水源涵養、保水機能）
  - 各戸貯留施設の設置（地域住民への啓発活動）
  - 建物の耐水化、土地利用の誘導（河川氾濫時、流水時）
- 「逃げる」
  - 情報提供（地域住民 貝塚市、岸和田市）



地域住民等と連携した維持管理 (アドプト・リバー・プログラム)



建物の耐水化

